国連NGO横浜国際人権センター・うずしおブランチ
T-over人権教育研究所・人権こども塾　ニュース

前号の続き、看護師をめざしているマキから送られてきた回答の最終回です。

「あなたは、たぶんずっとそういう生き方をしてきたんです」って言ってもらえて、自分のしてきたことが間違いじゃなかったんだと思いました。

返事は、こんな文から始まり、意外な方向へと進んでいきました。

あと、先生に伝えようと思って書き忘れてたこと、ちょっとだけ。
私の中で先生が言ってた、「愛という字は心を受け止める」って言葉は、私の一生の教訓です。私の心のど真ん中にいます。看護の勉強を始めてもですが、私自身がこんな風に生きていこうって思ったきっかけでした。
誰かの為に尽くして、それでも何も残らなくても、私は人の為に尽くそう、人のいろんな感情をちゃんと受け止めようって思えました。私はこれからも一生そうして生きていきます。看護師として患者さんが少しでも幸せだった、まあまあいい人生だった、と思えるような人生の終末を迎えられるようなお手伝いをしていきます。

ハッと我に還りました。
確かに言いました。
「愛」という字は、「心」という字を、ど真ん中で「受」け止めて、「愛」なんだ。
だから、いい加減ではなく、人の心をちゃんとど真ん中で受け止められる人になろう。文字遊びといえばそうですが、核心を突いていると思い、話をしました。
それが、今までマキの中に残り続けていることを知り、驚いたのです。

そして本当に最後になるんですけど、だからこの言葉、私の教訓は、先生の立場である吉成先生だから、いろんな子どもに伝えることができると思うので、少しでも伝えてあげて欲しいです。
心のうちを打ち明けて聞いてもらえることが、どれだけ救いになるか。その言葉に何を返すか。
一生懸命悩んでいることを、みんなに宗教みたいに言い聞かせたい訳じゃないんですけど、その言葉を人生のうちに聞くか聞かないかで、大きく違うと思いました。その気持ちを知れば、他人にちょっとは優しくなれるんじゃないかと思いました。
言いたいことってすごい溢れてきますね。それだけ真剣に考えてた証拠かなって思います。では、失礼します！

思いがあれば、言葉は溢れてくる。
確かにその通りです。そんな子どもたちにたくさん出会ってきました。
人前でしゃべらなかった子が、突如しゃべり始める。それは、何かに書いたものをただ読みあげるのではなく、自分の中で反芻しながらの、つっかえながらの、訥々としたしゃべりだったりします。決してスマートではなく、雄弁でもありません。でも一つ一つの言葉を大切に選びながら、魂のような、熱のこもったような言葉を吐き出していくのです。
冷えて固まり、角張った、薄っぺらい形式的な言葉ではなく、「生きた言葉」です。
一人称で考え、自分のことを自分の言葉で語るとき、言葉は自ずと溢れてくるのだと思います。
マキからの回答もまた、当時の「みんなで語り合う人権学習」をふり返らせてくれる、宝物のような贈り物となりました。

本気で語り合う人権学習は、――「すべてを変える」

うずしおブランチ代表